

令和3年度第2回守山市市民参加と協働のまちづくり推進会議

日時：令和3年10月25日（月）午後6時30分から午後9時00分まで

場所：守山市民交流センター 2階 研修室1・2

委員：

No	委員区分	団体名等	氏名	備考
1	1号委員	市民（自治会）	石田 俊治	
2	1号委員	守山商工会議所	葭本 勝利	
3	1号委員	市民（自治会、市民活動）	金野 弘子	
4	1号委員	市民（市民活動）	根木山 恒平	
5	1号委員	市民（民生委員）	西井 泉	
6	1号委員	市民（生涯学習、青年活動）	松井 里美	
7	1号委員	市民（市民活動）	遠藤 由隆	
8	2号委員	龍谷大学政策学部教授	只友 景士（委員長）	座長
9	2号委員	しがNP0センター理事	西川 実佐子（副委員長）	
10	3号委員	市民（公募）	宮川 美紀子	
11	3号委員	市民（公募）	菅井 隆雄	

発言者	会議内容（要旨）
宮川委員	議題(1) 令和3年度上半期の市民参画事業にかかる進捗状況について（報告） 市民懇談会を7学区に分け、感染対策に工夫しながら実施できたのは良いと思う。最後のグループ発表はどのようにされたのか。
事務局	通常であれば、最後に各グループの発表および只友教授（委員長）の講評を行うが、7学区に分散して実施した市民懇談会については、守山会館のみ龍谷大学生とオンラインを繋げて実施することとした。そのため、残念ながら、全体の意見を聞く機会は設けられなかったが、11月3日に開催する市民懇談会（環境）では、通常どおりの開催方法とさせていただく。
遠藤委員	市民懇談会の「一般申込」が無作為抽出で選ばれた方か。
事務局	そのとおり。2,000名を無作為抽出し、案内文を発送した。そのうち参加申込された約40名の方が「一般申込」となる。
石田委員	資料4の住みやすさ指標に係るアンケートの回答状況について、回答率が50%に満たないのは低いのではないかと思うが、一般的にはどうか。
事務局	様々なアンケートの結果においては、約40%の回答率が一般的である。緊急事

	<p>態宣言中のため、アンケートを実施することに対してどのような反応があるか懸念していたが、結果、想定よりも高い回答率を得ることができた。今回新たにインターネット回答を加えたことも要因だと考える。</p>
石田委員	<p>回答率が 50%に満たないのは、市民の方の関心度が低いためか。</p>
西川副委員長	<p>郵送でアンケート調査をした場合、基本的には 3 割程度の回答率となる。ただ、市が自治会などを通して調査をすると回答率が高くなるなどの事例もあり、案内方法によって、回答率は変わる。今回の回答率は決して低くはないと思う。</p>
石田委員	<p>回答率を 50%以上に上げるため、案内方法を工夫してほしい。</p>
遠藤委員	<p>選挙の投票率を上げることが難しいように、なかなかアンケートの回答率を上げるのは難しいと考える。</p>
宮川委員	<p>急に自宅にアンケートが届いた場合、受け取られた方は詐欺だと心配される場合が考えられる。例えば、事前に広報などで周知しておくとういのではないか。</p>
西川副委員長	<p>確かに安心できると思う。</p>
只友委員長	<p>しかし、広報に掲載することで、逆に詐欺に利用される可能性も想定されるため、慎重に検討する必要がある。</p>
石田委員	<p>主観による回答結果（単位：ハート）について、住み心地が 7.6 ハート、幸せ感が 7.3 ハートとあり、高い数字を示しているため、高い評価を得られていると考えてよいか。</p>
事務局	<p>本市のみで実施しているため、他市と比較はできないが、良い結果だったと考えている。</p>
石田委員	<p>他市の実施状況は把握されていないのか。</p>
事務局	<p>他市でも幸福度の調査を行っているが、質問項目はそれぞれ異なる。本市の住みやすさ指標の項目も、分科会を立ち上げて項目を決めているため、本市独自の項目となる。</p>
石田委員	<p>今後も継続して住みやすさ指標調査は実施されるのか。</p>

事務局	次の議題にて説明させていただくが、本市の守山市総合計画にかかる市民アンケートとの統合を検討している。
只友委員	<p>幸福度調査は、人口調査や GDP を調査することとは異なる。</p> <p>住みやすさ指標の市民アンケートを実施することは最先端だと言える。昔であれば、GDP が向上していれば大抵のことがうまくいっていると考えられていたが、今は GDP のみではすべてを測ることができず、市民がどのように感じているかを測ることができるのがこの幸福度調査である。しかし、幸福度調査だけでは、施策への反映が難しいため、総合計画にかかる市民アンケートとの統合を検討しているのが現状。</p>
石田委員	確かに。またアンケートは市民が市政に関心を持ついい手段だと考える。
宮川委員	もり・まっちの発行について、今年度はマッチングリストを別冊で発行するというのは良いと思う。発行時期はいつ頃か。また、どのように配布するか。
事務局	<p>各市民団体からの情報提供を本日締切としているため、できる限り早急に取りまとめて、発行したいと考えている。</p> <p>本センターを含む各施設への設置や、HP 等への掲載を考えている。</p>
西井委員	もり・まっちに掲載されている登録団体とはどのような団体か。
事務局	市へ掲載希望された団体を登録している。現在、289 の市民団体が登録されている。これは、市が把握している団体数で、もり・まっちを通じて、市民団体同士の横のつながりを作っていただきたいと考えている。
西井委員	もり・まっちはどこで配布されているか。
事務局	市民交流センター館内や市内各施設にて配布している。また、ホームページでも掲載している。
根木山委員	市民懇談会やもりやま未来ミーティングは傍聴できるか。
事務局	一般公開しており、傍聴可能。
石田委員	わがまちミーティングは全学区で開催されるのか。
事務局	わがまちミーティングは開催準備に時間がかかるため、現在は守山学区のみで開

	催している状況。他学区の方にもご案内はさせていただく予定。
松井委員	もりやま未来ミーティングも無作為抽出で案内が送られるか。
事務局	もりやま未来ミーティングについても、18歳～39歳の方に無作為抽出で案内を送る。
松井委員	以前、市民懇談会に参加したとき、若い方が少なかった。もりやま未来ミーティングは年齢を制限して案内されるため、若い方の意見を抽出しやすく、良いと思う。
事務局	松井委員ご発言のとおり、なかなか若い方の出席数が少ない状況。若い方や障害のある方、どんな方でもご参加できるように工夫を重ねている。手話通訳を設けたり、託児を開設したりしている。
西井委員	市民懇談会はどのように活用されるのか。
只友委員	<p>私から説明する。平成24・25年度にまとめられた提言書に基づき、本日の資料が作成されているため、提言書を見ながら説明させていただく。</p> <p>提言書の要約を見ると、「三つの具体策の提言」の中で1番目に「守山市市民懇談会の創設」がある。市民懇談会が創設された理由として、守山市の市民参画方法の中で、①幅広い市民参画ができ、②話し合いによる熟議（共通善）ができる市民参画方法が空白であったため。</p> <p>この市民懇談会の開催は計画策定段階などの条例に定められており、市民懇談会を開催することで、市民が思う勘所（かんどころ）を行政が把握することに繋がる。</p> <p>過去に実施されていた「100人委員会」のように、市へ直接意見を言う機会を作るのではなく、市民の方がどういう勘所を持っているかということ把握することが大事。</p> <p>先日の市民懇談会でも、「最初はまちが発展することが良いとばかり考えていたが、市民懇談会を終えて、ホタルの住む環境も大切にしなければいけないと感じた」という意見を持たれた参加者がいた。市民懇談会では熟議を経て、ちょうどよい頃合、つまり共通善を見つけることができると考える。</p> <p>今の話について、参加者同士が話し合いをする中で、その気づきが得られたということか。</p> <p>そのとおり。</p>
根木山委員	
只友委員長	実際に市民懇談会に参加すると、市民懇談会の雰囲気分かるため、ぜひ参加し

金野委員	ていただきたい。
遠藤委員	熟議という話があったが、楽しいだけの話し合いだけでは、なかなか熟議まで発展しないのではないかと。
只友委員	そのために、平成 25 年度の提言書にあるとおり、ファシリテーターの存在が大きい。市民ファシリテーターの養成講座などが行われている。
遠藤委員	ファシリテーターは職ではないが、問題ないかと。
事務局	それぞれの個性を発揮しながら、取り組んでいただいている。 また、ファシリテーターは 1 班に複数人配置されるため、お互いにやり方を学びながら、ファシリテーション力を磨いていただいている。
西井委員	自治会の話し合いの場でも、ファシリテーターの役割を担っていただける方がいると、さらによくなるのではないかと思います。
事務局	職員であれば若い主事級も含め、ファシリテーターを養成している。 市民ファシリテーターについても、当センターを通じて増やしていきたいと考えている。
議題(2) 令和 4 年度の取組みについて	
只友委員	守山市の中間支援組織のあり方の検討は市民協働課で行うか。それとも、本推進会議で実施するのか。主語がないため、補足してほしい。
事務局	市民交流センターが今年度から直営になったため、当センターにおいて実行していきたいと考えている。
只友委員	昨年度までの指定管理者が実施されていたことを、市民協働課が担うということで理解した。
金野委員	今年度、中間支援について、いい運営ができていないのではないかと考えている。市民団体の横のつながりができていないことが課題だと思うため、その部分をしっかり考えていただきたい。
事務局	中間支援のイメージが職員のなかでも、市民の方のなかでも、異なっていると感じている。 市民交流センターでは、市民団体の方の情報が集約でき、団体の継続に向けた情

	<p>報提供ができるのではないかと考えているため、今後も当センターを拠点として検討してまいりたい。</p>
根木山委員	<p>これまでは地縁組織がまちづくりを支えてきたが、新住民が新しい団体として協力していきながら、まちづくりを支えていくことも大事だと考える。また、NPOや商工団体との連携も大事であるため、大変重厚な内容である。</p> <p>次回、昨年度までの指定管理者の実績（賃金体制・予算規模など）を報告してほしい。</p> <p>公表できる資料について、ご報告させていただく。</p>
事務局	<p>社会教育団体に所属しているが、高齢化になり、学区単位で消滅しているため危機感を感じている。</p>
西井委員	<p>この中間支援団体というのは、新しい団体だけでなく、存続が危ぶまれるような旧団体も支援していただけるのか。</p>
事務局	<p>市民活動をされている団体が高齢化している話はよく聞く。取組みが何らかの形で継続されるように支援することも、中間支援組織の役割の1つだと考える。</p>
遠藤委員	<p>何に対しても支援するというのではなく、法律とも照らし合わせて、線引きを行うべき。中間支援組織の定義決めは確かに難しい問題だと思う。</p> <p>先ほど昨年度までの指定管理者が実施してきた内容を市民協働課が引き継ぐという話があったが、昨年度までは市民交流センターでどのように中間支援組織の定義を行ってきたのか。</p>
事務局	<p>昨年度までの指定管理の中では、あくまでも市民活動団体の活動支援の範囲で施設を運営していただいていたため、中間支援組織についてはこれから新たに検討していく。同様に中間支援組織の定義もこれから作り上げていく。</p>
西川副委員長	<p>補足すると、「中間支援」とは何かと何かの間や直接的な活動を指すのではなく、活動をしている方々の支援をすることを中間支援という。</p>
遠藤委員	<p>そもそも目指すべき形が中間支援組織という言葉に当てはまるのが正しいかどうかという疑問を感じる。やるべきことが言葉に隠れないようにしてほしい。</p>
西川副委員長	<p>中間支援組織を立ち上げる目標として、行政だと公平性が優先されるため、市民団体の支援が滞ってしまう恐れがあるが、中間支援組織であればもっと素早く支援に繋がられる可能性がある。</p>

	<p>市民活動フェスタの開催は、中間支援組織の確立にどう繋がるのか。</p>
遠藤委員	<p>例年では、当センターの1階を主に使用されている市民活動団体と、2階を主に使用されている文化活動団体がそれぞれに文化祭を開催されていたが、今年度については、両団体と一緒にして開催することで、これまで交わることのなかった団体の横の繋がりができるのではないかと期待している。</p>
事務局	
遠藤委員	<p>「市民活動団体」や「市民公益活動団体」など、使い方が混ざっていて、わかりづらい。</p>
事務局	<p>市民交流センターの利用者は、公益性・社会性などを持つ団体で、公益性に限るわけではないため、そのような使い分けを行っている。しかし、ご指摘いただいたとおり、「市民活動団体」の使い方について整理していく。</p>
事務局	<p>また、これまでの議論の中で誤解が生じないようにお伝えするが、今年度は市民協働課が市民交流センターの運営を担っており、本来の行政の仕事と施設の運営の両方を行っている。しかし、西川副委員長のご発言のとおり、中間支援は民間に担っていただき、市民協働課は本来の行政の仕事を行うことを目指していきたいと考えている。</p>
只友委員長	<p>市民交流センターを利用されている団体が、当初は公益性のない活動をされていたとしても、活動内容を周りに知っていただき、その活動が例えば地域の子どもの教育に繋がったりすれば、地域に根付く団体（公益性のある団体）として成長することを、この市民活動フェスタで期待しているのではないかと。</p> <p>資料の内容を変更してはどうか。公益性への関心を高めることを目的とするなど。</p>
葭本委員	<p>市民懇談会については、市民協働課が提言書の主旨をしっかりと理解され、取り組まれていると評価している。</p> <p>また、住みやすさ指標については、インターネットに関する回答を追加するなど、工夫されていてよいと考える。</p> <p>今回の住みやすさ指標の結果につきましても、前回同様、スポーツ・芸術に関する評価が低い。前回は、担当課から取組み状況を報告してもらったが、実際に市役所の分科会の中で協議されていることを報告していただきたい。</p> <p>市役所が専門的に考えていることと市民が感じていることに乖離があることは当然のこと。そのため、行政が結果を見て単純に自分たちの取組みが評価されてい</p>

只友委員長	<p>ないと捉えるのではなく、それが市民の実感に繋がっていないのはなぜかと考えることが大事。取り組んでいることが、なぜ市民の実感に繋がっていないか考え、乖離を埋める作業が必要である。</p> <p>単に質問内容を変更するだけでは、結局結果は同じになる。施策でやっていることと、市民の方が受け止めていることは違うということが大前提である。</p> <p>前は「市内でスポーツを観戦する機会がありますか？」という項目の評価が低かったことに対し、行政からは「市内にスポーツ施設が少ないため、評価が低かったのではないか」という回答があったが、今後の評価を変えるための施策については、何も回答がなかった。苦手な分野を避けるのではなく、苦手な分野にどのように挑戦し、改善するかが大切。</p> <p>幸福度調査をするということは、幸福だと感じている人は、どこにポイントを置いているかということを分析することが重要。所得と幸福度が相関しているという調査は多くあるが、所得だけではないという調査も大事。</p> <p>ぜひ分科会に私と中野教授を呼んでいただきたい。</p> <p>分科会は誰が参加するか。</p>
根木山委員 事務局	<p>市役所内の各担当課の係長などが出席する。</p> <p>住みやすさ指標については、まだ暫定値しか出しておらず、分析などもこれから行う。今後、分科会の中で協議していきたいと思う。</p>
只友委員長	<p>評価を見て、これまでやってきた施策が市民の幸福度に繋がらないと気づいたとき、方向性や目標を変えるため、明日からでもやるべき施策は変わるもの。</p> <p>評価をアウトプットするため、市民の発想を展開することも大事。</p>
遠藤委員	<p>例えば、評価の低かった項目に関連する市民ワークショップを開催し意見を聞くこともいいのでは。</p>
只友委員長	<p>確かに。それが具体的に市民活動になってもいいのではないかな。</p>
遠藤委員	<p>市民活動を支援するために、市民協働課の市民提案型まちづくり支援事業助成金を活用してもいいと思う。</p>
只友委員長	<p>専門性の高い各部署でアンケートを実施するのではなく、市民協働課が市民自身の幸福度を調査し、その結果を各部署に共有し、それぞれ協議するという形式はよいと思う。</p> <p>住みやすさ指標については、速報値であるため、もう少し分析していく必要がある</p>

事務局	<p>と思う。また、評価が低い項目についても、これまでとは視点を変えて検討したいと考える。</p> <p>また、資料では、総合計画とのアンケートの一本化としているが、只友委員長のご発言どおり、総合計画とは別のアンケートとして実施することが大事だと考えるため、一本化と限定するのではなく、実施方法について検討していく。</p>
宮川委員	<p>市民懇談会には担当課の職員にもぜひ多く出席してほしい。なぜなら、市民懇談会の雰囲気を感じることができるため。中には、「職員の方にこんなに頑張ってもらっていると知った」という嬉しいご意見もありますので、ぜひ職員の方に聞いてほしい。</p>
根木山委員	<p>市民でなくても見学は可能か。</p>
事務局	<p>見学は可能。</p> <p>いろいろな職員が関わることによって制度が充実するよう、市民協働課としても働きかけたいと思う。</p> <p>また、市民懇談会は、当初、担当課からなかなかテーマが出てこず、当課からテーマを探しにいく状態であったが、最近では担当課の方から市民懇談会を開催したい希望を出していただけるようになった。宮川委員のご発言のとおり、市民懇談会を経験した職員が増えて、自分の担当課でもやってみようと考えてもらえた結果ではないかと考える。</p>
遠藤委員	<p>市民提案型まちづくり支援事業助成金の条件で、5人から3人にした理由は。</p>
事務局	<p>例年募集の際に、5人を集めることが難しいという声を市民団体からいただいた中、複数人数を減らそうと考えた。また、偶数ではなく奇数人数がよいのではないかと考えた結果である。</p> <p>大変よいと考える。</p>
根木山委員	<p>市民提案型まちづくり支援事業助成金の審査の条件を明確にしてはどうか。</p> <p>特に、資料作成がなかなか億劫という方にとってはほしい情報だと思う。</p>
金野委員	<p>書類審査およびプレゼンテーション審査は同じ方が行うのか。審査される方の負担がかかるのではないかと心配。</p>
宮川委員	<p>書類審査については、行政の方で形式的な内部審査を行う。また、プレゼンテーションについては、審査員からもなかなか発表だけでは把握できないというご意見</p>

事務局	<p>を伺っているため、作成段階で内容を聞き取りできるような機会を作りたいと考えている。そのため、「書類作成事前アドバイス」という項目を設けさせていただいた。</p> <p style="text-align: right;">(了)</p>
-----	---